

# 11月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：http://jppf.jp/

## 10月体育の日をはさんで多数の体験会

10月9日、東京体育館にてスポーツドリーム

10月9日、NTCにてスポーツ祭り



10月11日、三浦選手「不可能を可能に」のテーマで対談



おとこ塾  
OTOKOJUKU  
2017年度 第2回  
「男の着想」  
～不可能を可能に～

古田貴之  
Takayuki Furuta  
1986年東京都出身。博士(工学)。2000年(株)日本科学技術振興機構ERATO近藤邦生研究室で博士号取得。その後、独立行政法人科学技術振興機構(現NEDO)にて専攻。2003年より現職。2015年より日本科学技術振興機構理事(専攻長)に就任。毎年「第一等賞」を3回獲得。2016年「日本経済新聞」に「未来を拓く」を掲載。2017年「日本経済新聞」に「未来を拓く」を掲載。2017年「日本経済新聞」に「未来を拓く」を掲載。

三浦浩  
Hirosi Miura  
1984年東京都出身。株式会社東京エレクトロニクスに所属。2000年以降の東京エレクトロニクスに所属。2000年以降の東京エレクトロニクスに所属。2000年以降の東京エレクトロニクスに所属。

「私がベンチになると考えるのは「自分が進化するチャンス」と思うからです」と語る古田氏。  
 難病から奇跡的に助かった少年時代に、下半身不随の車椅子の生活を過りながら  
 「不自由が不自由でなくなる社会」を実現しようという心で奮闘。ロボット技術で社会全体が幸せになる為の努力を  
 人生を懸けて徹底的に続けようと覚悟を決め、日々研究開発を続けておられます。  
 長瀬剛さんなどのコンサートスタッフとして働いていた2002年。  
 彼アターの仕事での事故で400キロのフォークリフトが倒れ首根を損傷、下半身不随になった三浦氏。  
 その2年後、アテネパラリンピックでパラ・パワーリフティングを知り、  
 競技者としてパラリンピックへの出場を目指すことに。昨年のリオパラリンピックでは5位入賞。  
 現在は2020年の東京パラリンピックを目指して活躍されています。  
 不可能を可能に突き進んでいらっしゃるお二方の着想に迫ります。

おとこ塾  
2017年度  
プレミアム会員  
のご案内

2017年10月11日(水) 一次会 18:30-20:30 八芳園 一般/18,000円(税込)  
 二次会 20:45-22:00 参加費 プレミアム会員 無料

スポーツドリーム(写真左上)では、パワーハウスつくばの瀬尾さんと、佐藤さんにお手伝いいただきました。  
 スポーツ祭り(写真上)では、宇城さんと中山きんに君のベンチ対決がありました。足を伸ばすベンチに戸惑う中山きんに君でしたが、すぐに修正、対決は、宇城選手の勝利。

10月13日、三浦選手の出身校、墨田区立第三吾嬬小学校で、三浦選手パラ・パワーリフティングを紹介。生徒さんからは、感動の作文を頂いた。



10月14-15日は大忙し。

三沢市国際交流センターオープンに合わせてパラスポーツパークの開催（写真右上）。東京都小金井公園では、秋祭りの中で体験会。パワーハウスつくばの皆様が体験会を開催。雨にもかかわらず150名以上の方々がパラ・パワーを体験してくださいました。（写真下）代々木公園では、スポーツオブハートというパラ体験会。トークショーに出演した三浦選手は大人気。エレイコ日本総代理店のパワーフラッシュ社の方々にご協力いただいた。



14-15日だけで500人くらいの方々にパラ・パワーを体験していただいた。



## □ 三浦選手二週にわ たい、文化放送に出演

[radiko.jp] 齊藤一美 ニュースワイド

SAKIDORI!

10/17 と 24日 15:30-17:50、文化放送、生出演。

ラジコで聞くと、何度でも、毎日聞けるとのことです。

## □ 共に生きる スポーツとアーツの 可能性 パラ・パワー、吉田寿子



「スポーツの世界で、オリンピックとパラリンピックがあることについてどう思いますか？」

オッター先生(ドイツの大学教授)の話はそんな言葉で始まった。

パラリンピックサポートセンターと東京芸術大学、ベルリン日独センターの主催で、国際シンポジウムが9/29、東京芸術大学音楽学部で開催された。パラリンピックを様々な角度から研究、論じていこうという会合だ。

東京パラリンピックに向けて、何とか、パラ・パワーの普及啓発をはかろうと、日夜、没頭している昨今、私は、オッター先生の問いかけに思わず、ウッ!と、つまずいた。

「芸術の世界では、健常者の作品展。障がい者の作品展、なんて、ないでしょ。辻井伸行さんが、ピアノコンクールに優勝したのは、健常者も、視覚障害者もない、音楽の世界で秀でていたから最高の榮譽を手にしたのです。」

でも、下肢に障がいがあったり、視覚障害を持っていたりすると、健常者とは対等に戦えないから、スポーツの世界では、オリンピックと同じ価値としてパラリンピックが認められるようになったのではないかと、心の中で反論する。

「多様性を認めようとか、健常者も障がい者もないインクルーシブな、分け隔ての無い社会を実現させようと、民主主義社会の努力が続いている。だが、ハイレベルな競技スポーツは、それ自身が、優秀な選手を選抜して榮譽をたたえ、順位をつける、能力主義である。と、考えるとオリンピックとパラリンピックというのは健常者と障害者の間にスポーツを通して明確な区別と分類を根強く残し、インクルーシブな社会を実現するという考え方とは、矛盾してしまうのである。」

-----

フットと、遠い昔(20年前くらい)、まだ、私がパワーリフティングの現役選手だった頃を思い出した。そのころ、小学校の運動会では、順位をつけず、みんなで手を繋いで100m走をゴールしよう、という、学校があり、それを「平等」と大変評価する人に出会ったことがある。その人からは、1kgでも重いものを挙げて、優勝しよう、たとえ0.01gでも体重差で、ライバルに勝とうとしていた私に、そんなことをしにわざわざ外国まで行くのか?!と、言われたことを思い出した。

優秀な選手を選抜して榮譽をたたえ、順位をつける能力主義は、否定されるべきものだろうか。それは、スポーツに秀でていたからといって、スポーツの苦手な人より秀でた人間である、という、結論ではない。人間には、様々な「差異」がある。スポーツの得意な人もいれば、音楽や芸術に秀でる人々、組織をまとめる力のある人、家をキ

チンと整えすみやすい環境を作るに秀でている人、など、様々な人がおり、様々な能力には、いやおう無く「差異」がある。「差異」は「平等」と矛盾するものではない。

オットー先生の話聞きながら、オリンピックはオリンピックの。パラリンピックはパラリンピックのルールの中で最高のパフォーマンスを人々は待ち受け、そのパフォーマンス自体が価値のあることであり、社会的な多様性とかインクルーシブな社会の実現とは何も矛盾するところが無い、と私には、思える。

最後に、「ハイレベルの競技スポーツにおいてもアスリートの包摂(インクルーシブ)を望むのであれば、既存のスポーツを適合させ、新しいスポーツを生み出さなければならない、こうして改変されたスポーツや新しいスポーツは、健常者・障がい者を問わず、誰もがアクセスでき、私達は新しい時代の倫理に適合した人間の多様性にスポーツを適合させるべきであって、西洋の健常な男性アスリートの為に19世紀に考案されたスポーツに人間を適合させるべきではない。」

2020年東京パラリンピックへ向けてひたすら走っている私には、なかなか、頷けない、オットー先生の話ではあったが、パラリンピックへのこのような視点があること、それは、しっかりと受け止めなければならない、とも、肝に銘じた。

「新しい時代の倫理に適合したパワーリフティング！」パラ・パワーの理事長と共に、来年、挑戦してみたいことがある。

「パラリンピック」が本当に多様性を認め、インクルーシブな社会の実現と矛盾するのか、考え続けて行きたいと思う。

Mexico City 2017: Hiroshi Miura hoping to improve ahead of Tokyo 2020

1/2 ページ

## 世界選手権 に向けての抱負

9月30日から始まるはずだったメキシコで開催される世界選手権が、地震のため、延期されることになった。この世界選手権に出ないと、東京パラリンピック参加の権利がなくなると言うことで、連盟としては、地震の不安はあるものの、二ヶ月遅れで開催される世界選手権に選手を派遣する予定でいる。

その、世界選手権に先立ち、IPCからリオ5位に入賞した三浦選手の世界選手権への抱負を聞かせてほしい、と、JPCを通じて申込みがあった。常に進化し続けたい、と、50歳を超えた三浦選手、世界選手権、2020東京パラリンピックと、その活躍に注目していきたい。メキシコ世界選手権は、12/2-8日、開催される。日本からはジュニア2名、女子3名、男子14名で参加する。

back to Paralympic.org

Select your language: English

Contrast: Enlargement:

REGISTER LOG IN

Official website of World Para Powerlifting

Search the IPC website SEARCH

Home News Competitions Athletes Results & Rankings  
Records Videos Classification Anti-doping Education About

NEWS

### Mexico City 2017: Hiroshi Miura hoping to improve ahead of Tokyo 2020

15.09.2017

Japanese powerlifter expects World Championships to grow the sport

Japan's Hiroshi Miura competes in the men's up to 49kg at the 2016 IPC Powerlifting World Cups, which also acted as the Test Event for Rio 2016 © - Getty

By IPC

Hiroshi Miura knows will not be easy for him to reach the podium at the Mexico City 2017 World Para Powerlifting Championships, with Vietnam's Paralympic champion Le Van Cong and Jordan's Rio 2016 silver medalist Omar Sami Qarada also competing in the men's up to 49kg.

But the Japanese powerlifter has other aims; he is hoping to set a new personal best and use the event as a springboard ahead of his home 2020 Paralympic Games in Tokyo.

"I want to give my best and improve myself at Mexico City 2017," he said. "If I do so, I will feel more confident as I prepare for Tokyo 2020."

LATEST NEWS

- 26.09.2017 Jetze Plat powers through packed 2017
- 26.09.2017 Tokyo 2020 unveils promotional graphics
- 26.09.2017 Mexican Para athletes volunteer to help victims of earthquake
- 26.09.2017 Worlds 'just the beginning' for Indian Para cyclists
- 26.09.2017 Pehivanlar stuns Javanmardi in Osijek

More news...